

寿都問題に触れず

道議会代表質問で自民会派

寿都町の高レベル放射線廃棄物(核のごみ)最終処分場選定に向けた文献調査応募の検討を巡り、最大会派の自

民党・道民会議は11日の道議会代表質問で道の対応について言及しなかった。

自民会派は、清水拓也道議が道内のエネルギー構成を問う質問をしたが、寿都町の問題には触れなかった。これまで、同会派は特別委員会などで「町内の結論がない時点で反対姿勢を示すのは越権行為」などと、反対姿勢を示した鈴木直道知事の対応を批判していたが、議会では触れなかった。

ある道議は「会派内でも賛否がある。解散

総選挙もささやかれる中、いま賛否調整したら大変なことになる」と明かした。

一方、民主・道民連合は、梶谷大志道議が代表質問に立ち、鈴木知事の寿都町への対応を質問。鈴木知事は「文献調査は最終処分場選定のプロセスで、『核のごみを受け入れがたい』とした道の『核抜き条例』に相いれない」などと従来の主張を繰り返した。

代表質問は14日もあり、公明党と結志会が寿都町に関する質問を予定。共産党も17日から始まる一般質問で質問する予定で、自民会派の対応が際立っている。

【山下智恵】